

《令和 2 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業報告》

前年度に引き続き、相談業務、講師派遣、サロン、子育てアシスト(年中児集団行動観察)、ペアレント・トレーニング、普及啓発を行っている。

1. 相談業務

(1)相談件数(R3.3.31 現在)

- 実支援人数 884 人
- 延支援件数 3,978 件

(2)相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活(コミュニケーション、行動面、学校や所属機関でのこと等)の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関(保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等)と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

18 歳以上が全体の 58.3%であり、成人期以降の相談が半数を超えている。家族・本人からの相談が中心であり、家族の相談は情報提供や生活における困難さへの具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素の強いものが多い。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により予想だになかった事態が発生していることを冷静に受け止め、自分を見つめる時間になっている相談者もいる一方、見通しが立たない不安が増大し仕事や生活に支障をきたしたケースもあった。親亡き後の生活に関して、当事者が 20 代前半、親も現役世代といった、これまでよりも若年の段階で相談に繋がるケースが増加している。新型コロナウイルス感染症感染拡大により先行きの見えない生活の中、将来の生活について早めに備えておきたいというニーズが高まったことが一因ではないかと考えられる。

18 歳未満の全相談のうち乳幼児期が 25.6%、小学生が 38%、中学生が 19.2%、高校生が 17.2%であった。乳幼児期から小学生の相談件数は例年と同程度だが、中学生以上の相談件数は減少している。前年度同様、幼児期の相談は単発中心のものから継続相談へとニーズが変化してきている。既に診断や療育に繋がっているが、子どもの特性理解や家庭での支援に関して助言を求める事例が多く、「医療機関や療育機関では時間も限られ、日々の困りごとの相談はしにくい」という声も聞かれている。本人への早期発見・早期支援が推し進められる一方で、それらと並行して行われるべき家族支援は、地域で十分提供されていない現状があることが伺われた。

学齢期以降、特に中学生・高校生年代の相談においては休校や分散登校・オンライン授業、行事・部活動の縮小などで負担が減り、状態が落ち着いているという声が多く聞かれた。小学生年代でも同等に、学校生活に関する相談は減少したものの、学習習慣や生活リズムの維持の困難さ、きょうだいや親子間のトラブルなど、家庭内での事柄に関する相談は増加している。

潜在的には中学生・高校生でも同等の問題は生じていると考えられるが、小学生ほど生活への保護者の関与が多くないため、相談に至る事例が少なかったのではないかと考えられる。

(3)相談支援・就労支援状況

就労準備支援では相談者のニーズやスキルの把握から個々の障害特性の理解を深めることに重点を置き支援を行っている。職業のマッチングと同等に、心身の健康や生活リズムの安定が継続的な就労につながると気付くことで日常の生活課題に取り組めるようサポートしている。就職活動支援では新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で求人企業が減少し就職活動が思うように進まない相談者に対し、千葉障害者職業センター、ハローワーク専門援助部門、ハローワークプラザちば、若者サポートステーション、就労移行支援事業所等の各関係機関と情報共有をしながら、現状で取り組める内容を整理できるよう支援している。就職者相談ではリモートワークや業務内容の変更等変化した勤務体系への相談が多く、出勤日数の減少から解雇になるのではという不安の相談がある一方、給与保障がある中で出勤日数の減少や少人数の職場環境に働きやすさを感じる方も一定数おり、精神的に安定される方もいた。

今年度の新規就職者数 11 名で内 8 名が障害者雇用枠での採用であった。これは昨年度の就職者 32 名の約 1/3 の数字になる。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による求人の減少や対面を控えた合同説明会の中止が大きな理由と考えられる。就職先は学校(業務補助)、工場(軽作業)、郵便局(配達)、病院(調剤業務)、施設(介護職)等であった。

2. 講師派遣

(1)外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)

幼稚園・保育所(園)や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じている。相談の内容としては障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。対象者に関するだけでなく、周囲の環境調整等についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

すくすくサポートや子育てアシスト等、他の事業も併用されている幼稚園・保育所(園)・認定こども園等から依頼を受けるケースが多い。また講師派遣のみでのつながりであっても、半年に 1 回など定期的に派遣を希望される例が増加している。

(2)子育てアシスト(年中児集団行動観察)

※外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)の一環として実施

乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

本年度より目的を鑑み、園内研修に重点を置いた形式(従来の LITE)での実施を基本としたが、園からの希望があれば、保護者への質問票配布・返信を行う形式(従来の BASIC)も選択できる形とした。募集は幼稚園・保育所(園)・認定こども園を対象とし、文書配布により行った。本年度も年間 12 回の実施を予定していたが、内 4 回については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を理由として園より中止の申し出があり、計 8 園での実施となった。

【実施園】

- ・幼稚園 1 区(若葉) 1 園
- ・保育園 3 区(稲毛、若葉、緑) 4 園
- ・保育所 1 区(花見川) 2 園
- ・認定こども園 1 区(稲毛) 1 園

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の理由による実施中止園

保育園 4 区(中央、稲毛、若葉、緑) 4 園

【内 容】

- ・集団場面での行動観察:幼稚園での集団活動場面の様子を観察
- ・職員と意見交換:気になる子への対応方法などを協議
- ・各園職員へアンケート

※BASIC 形式での実施の場合、以下の項目を追加して行う

- ・保護者への事前説明:文書による趣旨説明
- ・保護者への事前調査:ご家庭で困っていること、気になることの確認
- ・保護者への報告:各児への所見を支援センターで作成、園から報告
- ・ミニ講座:保護者を対象に趣旨説明と子育てミニ講座を実施(園が希望した場合のみ)

【協力関係機関】

- ・養護教育センター
- ・各区保健福祉センター
- ・千葉大学教育学部
- ・千葉市桜木園
- ・千葉市療育センター 療育相談所 / やまびこルーム / 相談支援事業所ぱれっと / ふれあいの家

【実施結果】

	形 式	人 数	障害の 診断あり※1	相談機関等 を勧める※2	対応方法 アドバイス※3
若 葉 区 A 園	LITE	5	1	1	4
稲 毛 区 B 園	LITE	7	1	2	5
若 葉 区 C 園	LITE	17	0	2	12
中 央 区 D 園	LITE	中止			
緑 区 E 園	BASIC	12	2	1	12
花見川区 F 園	LITE	20	1	0	14
稲 毛 区 G 園	BASIC	11	1	0	11
花見川区 H 園	LITE	30	3	3	18
若 葉 区 I 園	BASIC	23	0	5	12
稲 毛 区 J 園	LITE	中止			
若 葉 区 K 園	LITE	中止			
緑 区 L 園	LITE	中止			

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

【考察】

本年度より、園職員の支援技術の促進に重点を置いた形式(LITE)での実施を基本として募集を行った。本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により4園での実施が中止となったが、実施を予定した12園中8園は実施経験のない園であった。保護者同意を必要としないために申し込みがしやすく、子どもの発達に関する保育者の気掛かりな点や関わり方について、関係機関を交えながら園内で話し合えることが利点となっているものと考えられる。

また、園での意見交換では、子どもへの関わり方だけでなく、信頼関係の構築が難しいケースなど、保護者支援に困難さを抱えている事例も多く上がる。子育てアシストで子どもや保護者への支援の道筋を明らかにした上で、実施後も講師派遣(実技中心)などで園へのコンサルテーション的役割が求められるケースも少なくない。継続的に関わることで、園と保護者間の共通理解が深まり、すくすくサポートや専門機関への相談へと至るケースも増えてきている。

(3)外部から講師派遣依頼を受けた研修(講義中心)

日付	名称	人数	内容
R02/08/27	施設職員研修	11	場所:みつわ台幼稚園 内容:「発達障害の基礎知識 - 気になる子への理解と対応 -」 対象:幼稚園教諭 講師:発達支援員 斎藤 幸佳
R02/10/21	特別支援教育事例研究会	20	場所:植草学園弁天こども園 内容:「専門機関や小学校との連携を考える事例研究」 対象:幼稚園教諭 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R02/10/22	施設職員研修	25	場所:都賀保育園 内容:「発達障害の基礎知識 - 気になる子への理解と対応 -」 対象:保育士 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R02/11/07	子育て支援講座	30	場所:稲毛保健福祉センター 内容:「子育て支援講座 - 発達障害と子育て -」 対象:民生児童員、社協推進員、地域の保護者 講師:相談支援員 奥田幸子
R02/12/16	障害者職業生活相談員資格認定講習	19	場所:障害者職業総合センター 内容:「障害別にみた雇用の実際(発達障害)」 対象:障害者職業生活相談員資格認定講習受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇
R03/01/07	ワークシステムサポートプログラム	4	場所:障害者職業総合センター 内容:「発達障害について」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇
R03/02/19	ワークシステムサポートプログラム	2	場所:障害者職業総合センター 内容:「発達障害について」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇

※12件の申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により5件が中止となった

3. 普及啓発・研修

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。一般市民や関係者を対象とした啓発イベント・研修会を開催し、発達障害への理解浸透を図っている。

①主催講演会

日付	名称	人数	内容
R02/11/14	第1回発達障害講座 「発達障害のある子への 保育・支援について」	36	場所:美浜保健福祉センター 4F 大会議室 内容:『発達障害のある子への保育・支援について』 講師:千葉大学特命教授 富田 久枝先生

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、予定されていた講演会が2回中止となっている

②地域住民等に対する普及啓発

日付	概略	内容
R02/11/07	第12回世界自閉症啓発デーinちば ～みんな大切な仲間です～	場所: 千葉市生涯学習センター アトリウムガーデン 内容: 自閉症の方たちの作品展示、千葉県自閉症協会や各発達障害者支援センターの案内、パネル展示など

③関係施設・関係機関等の連携

日付	協議会名称	開催地	内容
R02/06/02	第1回特別支援連携協議会	書面開催	(1) 開会 (2) 主催者挨拶 (3) 出席者紹介 (4) 報告・協議 ①特別支援連携協議会設置要綱改定について ②令和元年度第2回特別支援連携協議会の議事録報告 ③今年度の取組(案) ④その他 (5) 諸連絡 ①次回の予定 ②実務担当者会議の開催予定 (6) 閉会
R02/06/08	千葉市子ども・若者支援協議会 代表者会議	書面開催	(1) 委員紹介 (2) 議題 ①令和元年度千葉市子ども・若者支援協議会活動報告について ②令和元年度千葉市子ども・若者総合センターLinkの相談状況 ③令和2年度千葉市子ども・若者支援協議会活動計画について ④千葉市ひきこもり対策事業について ⑤千葉市子ども・若者支援協議会構成機関への加入について
R02/06/16	第1回 千葉市地域意見交換会	千葉障害者就業支援キャリアセンター及びWeb会議	(1) 「開会挨拶」 (2) 「各機関からの近況報告」 (3) 求人案内／連絡事項
R02/07/03	第1回特別支援連携協議会 実務担当者会議	書面開催	(1) 報告 ①令和元年度第3回実務担当者会議の議事録報告 ②令和元年度第2回特別支援連携協議会の議事録報告及び 令和2年度第1回特別支援連携協議会(書面開催)の報告 ③特別支援連携協議会設置要綱の改定について (2) 協議 ①実務担当者会議: 令和2年度の具体的取組(案)
R02/07/10	千葉公共職業安定所管内 障害者雇用連絡会議	千葉公共職業安定所	(1) 開会 (2) 千葉公共職業安定所長あいさつ (3) 議題 ①職業紹介状況及び関係機関との連携について ②障害者雇用率制度について ③障害者虐待防止、障害者差別の禁止及び合理的配慮について (4) ①情報交換・意見交換 ②意見交換 (5) 閉会
R02/07/14	第16回千葉市地域自立支援協議会 全体会	書面開催	(1) 報告事項 ①令和元年度千葉市地域自立支援協議会活動報告 ②令和元年度における市事業等の報告 (2) その他 ①日中サービス支援型グループホームについて ②障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針
R02/08/04	第2回 千葉市地域意見交換会	千葉障害者就業支援キャリアセンター及びWeb会議	(1) 成美学園グループ「ひかりカレッジ」の紹介 (2) ハローワークにおける求人求職の状況 (3) 緊急事態宣言下での就職者の状況 (4) 意見交換 (5) 求人案内／連絡事項
R02/09/29	第2回特別支援連携協議会 実務担当者会議	千葉市養護教育センター	(1) 開会の言葉 (2) 挨拶 (3) 出席者自己紹介・各課・機関の主な事業紹介 (4) 報告 ①連携サポートリスト ②「個別的教育支援計画」作成に関する調査 ③総合案内パンフレットの確認 (5) 協議(今年度の取り組みについて) ①子どもルームでの幼保版・個別的教育支援計画活用について ②放課後等デイサービスとの連携について (6) 諸連絡 ①今後の日程(実務担当者会議の開催予定) ②その他 (7) 閉会の言葉
R02/10/06	第3回 千葉市地域意見交換会	千葉障害者就業支援キャリアセンター及びWeb会議	(1) 「コロナ禍中の今、今後に向けて対応や取り組み発表 (2) 登壇を受けてグループワーク (3) 社会福祉法人りべるたす中央区障害者基幹相談支援センターの資料発表 (4) 求人案内／連絡事項
R03/01/19	第2回特別支援連携協議会	書面開催	(1) 開会 (2) 主催者挨拶 (3) 報告 ①令和2年度第1回特別支援連携協議会について ②令和2年度特別支援連携協議会実務担当者会議について(第1、2回) ③今年度の取組について (4) 協議 ①次年度の方向性(案) ②その他 (5) 連絡 (6) 閉会

R03/01/27	第1回障害者雇用支援連携協議会	書面開催	(1) 実施方針 ①協議会の変更について ②開催方法について (2) 協議内容 テーマ「障害学生への就業支援における支援ネットワークの形成について」 (3) 実施方法 第1回 書面開催 第2回 書面開催・個別ヒアリング
R03/02/02	千葉市子ども・若者支援協議会 実務者会議	書面開催	(1) 機関一覧 (2) 報告 ①千葉市・子ども若者総合相談センターLinkの運営状況について ②葉市ひきこもり地域支援センターの運営状況について ③千葉市・子ども若者支援協議会令和2年度活動報告及び令和3年度活動計画（案）
R03/02/10	第1回 千葉市高齢者等悪質商法被害防止ネットワーク会議	書面開催	(1) 令和元年度消費生活センター主要事業報告について (2) 令和2年度消費生活センター主要啓発事業 (3) 新型コロナウイルスに関連し発生した悪質商法について (4) 千葉市障害者基幹相談支援センターについて (5) 高齢者等悪質商法被害防止ネットワーク会議設置要綱 (6) 高齢者等悪質商法被害防止の仕組み (7) 千葉市悪質商法高齢者等被害防止情報連絡票
R03/02/16	第5回 千葉市地域意見交換会	千葉障害者就業支援キャリアセンター及びWeb会議	(1) 「多様性(LGBTQ)って何？」 ㈱フクフクプラス 取締役 高橋圭 氏 (2) 会社紹介 エイジスコーポレートサービス㈱ (3) 求人案内／連絡事項
R03/02/25	第3回特別支援連携協議会 実務担当者会議	書面開催	(1) 次年度の方向性について (2) 令和3年度の具体的取組について(案) (3) その他 共通理解をしておきたいこと・意見等
R03/03/18	千葉市子育て支援ネットワーク会議	オンラインアンケート	オンラインアンケート 各機関の連携、子育て資源・事業内容の把握、情報交換

4. サロン「しえるろっく」

発達障害の診断を受けており、診断名を告知されている 18 歳以上(高校生を除く)の方を対象とした茶話会を実施している。日常的な話題を中心としたコミュニケーションや、アナログゲーム等の活動を通じて自分を表現する力、他者を理解する力の向上を目的としている。参加人数は毎回 4 名程度である。全 8 回を予定して企画したが、5 月の緊急事態宣言を受け 6 月の初回は中止とし、全 7 回行った。

新たな活動としてフライングディスク競技や、所外への散策などを実施した。年度途中で新しく参加者が加わったことで意見交換をする機会が増え、特性理解をテーマにした話し合いや当事者が講師になり折り紙作成をするなどコミュニケーションの拡がりにも繋がった。感染症対策をした上で当事者が参加しやすい活動となるよう工夫をしたが、公共交通機関を利用した来所が難しくキャンセルされる方もいた。

5. ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。本年度より、ADHD もしくは ASD と診断された子どもを持つ保護者を対象とし、合同でグループを編成した。

○プログラム

【参加者】

・ADHD もしくは ASD と診断された子どもの保護者 6 名(幼稚園児 1 名、小学生 5 名)

【内 容】

セッション1	オリエンテーション 子どもの行動を3種類に分けてみよう
セッション2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組合せー
セッション4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション7	制限を設けるー警告とペナルティーの与え方ー
セッション8	これまでのふりかえり

【考 察】

本年度は新型コロナウイルスの感染症感染防止に配慮し定員を 6 名として実施した。昨年度の試行により、本プログラムは ASD のある子どもを持つ保護者に対しても有効であることが確認できたため、本年度は 1 つのグループとしてセッションを行った。

新型コロナウイルス感染症感染拡大により家族で過ごす時間が増えたことで、各家庭でより積極的に宿題に取り組まれ、セッションの最終日にはほぼ全員の参加者から親子関係が良くなってきていると報告を受けた。グループは終始穏やかな雰囲気で見聞交換が行われ、終了後の感想では「子どもに対応する際の選択肢が増え、ゆとりができ冷静に子どもと接することができるようになった」「子どもを褒めることで癇癪が減っていき親子の関係が良くなった」など肯定的な意見が多く挙げられた。

新型コロナウイルス感染症感染防止対策として座席の間隔を広く取る、ロールプレイ中の参加者同士の接触を控えて頂くなどのソーシャルディスタンスを保つ工夫を行ったが、それらによって保護者同士の交流が阻まれた側面もあったように思われた。参加者からは「もっと雑談の時間が欲しかった」との意見も聞かれ、プログラムの主目的ではないが互いに悩みや情報を共有することも保護者の参加目的の一つであり、感染防止対策とニーズの充足をいかに両立させるかは今後の課題であると感じた。

○リーダー養成研修

【参加者】

・基礎研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 6 名

【内 容】

・基礎研修 講義形式で各セッションの概略を説明

【考 察】

本年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策の為、保護者グループの見学等で人の密集を避けられない実務研修は中止にし、基礎研修も定員 30 名から 10 名へ、大幅に人数を減らしての実施となった。応募数自体が少なく、緊急事態宣言の再発出により当日の欠席者が多かったこともあり、最終的な参加者は 6 名であった。

グループのリーダーは、プログラムで取り扱う内容に習熟している事はもちろん、いかにメンバーの心理的安全性を担保し相互交流を促進するか、どのように個々の事例を全体の学びにまと

め上げていくかといった高度なファシリテーションの力が求められる。このような力は実際のグループを見学し、グループ内の力動を体験することでしか学び取れないものであり、座学のための基礎研修だけではリーダー養成研修としては不十分であると感じた。感染防止対策と、体験的に学ぶ場の提供が両立できる形を、今後検討していく必要がある。